



## おばあちゃんのおにぎり

高崎市立岩鼻小学校 4年 新井 敢大

「みんなで食べるとおいしいね。」ご飯を食べる時、おばあちゃんは、いつもぼくに言った。「同じ味だよ。おばあちゃん。」ぼくが言うと、おばあちゃんは、「そうかい。」って、笑ってた。

おばあちゃんのおにぎりは、たき立てアツアツの白ごはんを「ホッホッ。」って、言いながら丸くにぎる。そして、のりをまいてしょう油をチョンチョンって、つけて食べる。しょう油のついたのりご飯は、すごく美味しいんだ。

ママが仕事でいない土曜日は、おじいちゃんとおばあちゃんと、三人で遠足に行った。公園で遊んでからシートをしいて三人で、すわって食べた。せみのミンミンって声がすごくおばあちゃんの声なんて聞こえないくらいだった。丸い白ご飯おにぎりとういんナーとたまごやきは、いつもおなじメニューだった。「みんなで食べるとおいしいね。」ぼくが、口いっぱいにおにぎりを入れると、おばあちゃんは、いつも言うんだ。口の中に、入っているから返事できなかったよ。

去年の冬、おばあちゃんは入院した。入院前のおばあちゃんは、丸い白ご飯おにぎりをぼくに作ってくれたけれど、作ってくれた後自分は食べないでゴロンって横になっていた。いつもの言葉をおばあちゃんは、言ったけれど、「みんなで食べてないし、おばあちゃん食べてないのに変なの。」ってぼくは思った。後で、ママから聞いてわかった事だけどおばあちゃんは具合悪くて休みながらじゃないと動けなかった。それでもぼくにおにぎりを作ってくれた。「おばあちゃんのご飯を一番最後に食べたのは敢大だね。」ママは泣きながら話してくれた。

おばあちゃんは、時々たい院して、ぼくの家に行った。「丸い白ご飯おにぎり、また作ってよ。」って言うと、おばあちゃんは、「はいよ、わかったよ。」って、言ったんだ。

おばあちゃんのこの返事は、やる気がない時かできない時だってぼくは知っている。

五月十二日、おばあちゃんは死んだ。おばあちゃん丸い白ご飯おにぎりは、もう食べられなくなった。みんなでいっしょに、食べられなくなった。死ぬってもう会えない事なんだ。もうおばあちゃんのご飯は、食べられないって事なんだって思った。お米の中には神様がいるって聞いた。だから残しちゃいけないんだ。おばあちゃんが小さくにぎってくれたのは、小さいぼくが残さないようにだったんだね。

八月十三日は、おぼんっていつて死んだ人が、帰ってくる。ぼくは、アツアツの白ごはん、丸いおにぎりをにぎるよ。のりをまいて、しょう油をチョンチョンってつけて、食べようと思う。おばあちゃんのおにぎりをみんなで食べようと思う。